

第3部 諸地域世界の結合と変容

7 アジア諸地域世界の繁栄と成熟

2 東アジア諸国の発展（教科書 P. 120～121）

① ベトナム王朝の成立 [p. 120]

陳朝

- ・モンゴルを撃退
- ・[] を制定

[]

- ・永楽帝の支配を退けて成立，南部に勢力拡大
- ・中国文化（儒教・科挙）を受容

[]

- ・19世紀に成立，国号を[]とし，清に朝貢
- ・タイと抗争

② 朝鮮の王朝 [p. 120]

[] (李朝) 都：漢城（ソウル）

- ・倭寇討伐で名をあげた[]が高麗をたおして建国
- ・明に朝貢，科挙にもとづいた官僚制を整備
 - 科挙合格者の名士層（[]）が社会をリード
- ・朱子学を重視し，[] を制定
- ・壬申・丁酉の倭乱（日本では文禄・慶長の役）
 - [] の侵入を退けるが，国土が荒廃
- ・清の台頭
 - 清と朝貢関係を結ぶ
- ・日本の江戸幕府と国交回復

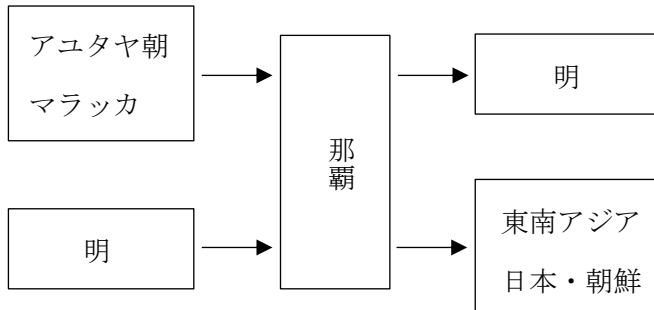
③ 琉球王国の繁栄 [p. 121]

- ・14世紀 北山・中山・南山の三勢力成立
 - それぞれが明に朝貢

・ 15 世紀前半 中山王が統一し、〔 〕 成立

〈大交易時代(15 世紀)〉

・ 明が海禁すると〔 〕の拠点として繁栄



・ 17 世紀 薩摩藩（島津氏）に征服される

→ 王国としての体制は残る

明・清への〔 〕として存続

④ 日本の武家社会 [p.121]

鎌倉幕府 元軍の侵略（元寇）を退ける

室町幕府 倭寇を取り締まり、明と〔 〕を行う

16 世紀 生糸（中国商人）、鉄砲（ポルトガル人）、キリスト教（宣教師）が日本に伝来

日本人は東南アジアに〔 〕を建設

江戸幕府 〔 〕を発令（キリシタン禁止・貿易独占のため）

中国・オランダ・琉球・アイヌと交易

対馬の宗氏を通じて朝鮮と国交回復

→〔 〕が来日